

### 【事例3】 コミュニケーショントラブル



◆ 中学女子生徒Aが、勉強中にLINEの通知が頻繁にあり、集中できずに困った。



◆ Twitterに「あなたと同じ高校に行きたくない」と中学女子生徒Bが書き込んだ。それを見た女子生徒Cは、自分のことを言われていると思って不安になり、元気がない日が続いた。



◆ 中学女子生徒Aのメッセージの返信が遅いので、同クラスの女子生徒Bが怒ってしまい、口を聞いてくれなくなりました。知り合いの生徒Cにトラブルの仲裁に入ってもらうため、AはBのIDをCに教えたが、そのことでまた怒りをかかった。

## (未然防止)

コミュニケーション手段の特徴として、次のようなものがあります。これらのことを理解させ、適切な手段の選択や表現ができるよう指導する必要があります。

手段	対 面	電 話	メール・メッセージ
内容	言葉 声色 表情・しぐさ	言葉 声色	文字 絵文字
手順	場所と時間を共有	時間を共有	場所と時間を問わない

具体的な例として、下のイラストのように、同じ言葉（文字）でも、意味が逆になることがあります。相手の表情が分かればその意図は伝わりますが、文字や顔文字だけのコミュニケーションでは、うまく相手に伝わらないことがあることを指導します。



また、インターネットの特性から、メールやメッセージを送ったりSNSや掲示板に書き込んだりするときには、次のようなことを意識させる必要があります。

- ・自分が書かれて嫌だと思ふことは書き込まない。
- ・インターネットへの書き込みは「永久に消せない」ことを常に考える。
- ・自分や他の人の個人情報（名前や顔写真、ID、メールアドレスなど）を掲示板に書き込んだり、無断で他人に教えたりしない。
- ・すぐに返事が返ってこなくても気にしない。

これらのことから、児童生徒を指導する場合には、児童生徒自身が友達と話し合っテルールを作るよう指導することが考えられます。また、教職員も、児童生徒間の同調圧力によって、LINE等のやり取りをやめたくてもやめられない状況があることを理解するとともに、機会を逃さず指導することが必要です。